

「衛星放送協会番組アワード」と「通信・放送 Week 2019」

神谷 直亮

今回は、7月に開催された第9回「衛星放送協会番組アワード」と、通信・放送業界の最先端技術の粋を集めた「通信・放送 Week 2019」についてレポートする。

「衛星放送協会番組アワード」

第9回を迎えた「衛星放送協会オリジナル番組アワード」の授賞式は、7月17日に東京・よみうり大手町ホールで行われた。プログラムは、衛星放送協会の小野直路会長の開会の挨拶、総務省の国重徹総務大臣政務官の来賓挨拶で始まり、編成企画部門最優秀賞、番宣部門最優秀賞、CAB-J賞、審査員特別賞の紹介と授与が続いた。

編成企画部門最優秀賞は、NHK BSプレミアムで放送された「家族になろうよ 犬と猫と私たちの未来 関連編成」に与えられた。

今回新設された番宣部門最優秀賞とCAB-J賞は、「特集:ランポー吹替 全5種」と「東北6県へのインバウンド施策」がそれぞれ受賞した。前者は、ムービープラスの制作で、後者は、世界の歴史&エンタメ(エアンドイーネットワークスジャパン)と東日本旅客鉄道の共同制作である。

審査員特別賞は、時代劇専門チャンネルの「小河ドラマ 龍馬がくる」に決まった。

次いで、恒例のドラマ、ドキュメンタリー、

中継、教養、バラエティ、アニメ、ミニ番組の7部門で構成される各オリジナル番組の最優秀賞の紹介と表彰が行われた。受賞作品は、それぞれ下記の通りであった。

ドラマ部門 「連続ドラマW パンドラIV AI戦争」(WOWOW プライム)

ドキュメンタリー部門 「ボルトとダシャマンホールチルドレン 20年の軌跡」(NHK BS1)

中継部門 「エビパデ! ダンススタジアム〜日本高校ダンス部選手権 冬のバトルトーナメント〜」(スカイ A)

教養部門 「ドキュメンタリー〜The REAL〜ブレイクダンス ユースオリンピック新競技誕生の瞬間」(J SPORTS 3)

バラエティ部門 「Why? 強くなった? 卓球ニッポン」(NHK BS 1)

アニメ部門 「ムヒョとロージーの魔法法律相談事務所」(BS スカパー! / アニマックス)

ミニ番組部門 「おっばいチェック体操」(チャンネル銀河 / 女性チャンネル♪ LaLa TV / ムービープラス)

最後に、上記7部門の最優秀賞作品の中から栄えある大賞の発表があり、「ボルトとダシャマンホールチルドレン20年の軌跡」がグランプリを獲得した。

吉岡忍審査委員長は、本作品に対し「マンホールで必死に生き抜いた少年たち(ボ

ルトとダシャ他)を20年の長期にわたり取材し続けた作品である。テレビがどこまで人間を描けるかをとことん追求しており、衛星放送協会として大いに誇れる番組に仕上がっている」と称賛した。この授賞に当たり、ナレーションを担当したリリー・フランキーから会場にビデオ・メッセージが届き会場の雰囲気が一気に盛り上がった。

今回のプログラムで予想外だったのは、協会特別賞が設けられており、日本映画放送(株)の杉田成道社長に授与された。授与の理由は、「どの民放より多くの時代劇を撮ってきた。第20作となる帰郷で、初の8K時代劇にチャレンジした」と、その貢献に報いるものであった。この際に、花束を手にした俳優の緒方直人がゲストとして登壇し、「これからも時代劇の火を灯し続けてください」と杉田社長にエールを送り会場に高揚感をもたらした。

「通信・放送 Week 2019」

通信と放送の最先端技術や機器が集結した「通信・放送 Week 2019」(主催、リード エグジビション ジャパン)は、7月17日~19日までの3日間、東京都江東区の青海展示棟で開催された。「通信・放送 Week」は総称で、会場は、「4K・8K映像技術展」「映像伝送 EXPO」「光通信技術展」



写真1 第9回を迎えた「衛星放送協会オリジナル番組アワード」の授賞式は、よみうり大手町ホールを使って盛大に行われた。

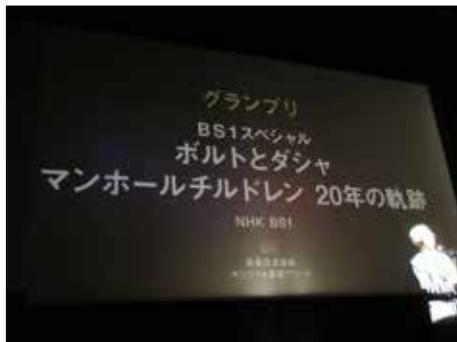


写真2 今回の番組アワードのグランプリに輝いたのは、「ボルトとダシャマンホールチルドレン20年の軌跡」であった。



写真3 今回の特別ゲストとして招待された緒方直人が、協会特別賞を受賞した杉田成道社長に花束を贈呈し拍手を浴びた。



写真4 日本電業工作は、小型衛星通信ターミナルと長距離無線LANシステムを組み合わせた可搬局を紹介して注目を集めた。



写真5 日本アンテナは、融雪装置付き衛星放送受信アンテナを参考出展した。



写真6 きもと社は、アメリカのマーターポート社製3Dカメラを紹介して、来場者の関心を呼んだ。

ていた。

本展示会については、本誌8月号で詳細なレポートがなされているが、本稿では、4専門展の中で、特に筆者の目に留まった機器やシステムに触れたいと思う。

まず、衛星通信分野では、日本電業工作、日本アンテナ、古野電気、LWPAゾーンの展示が興味深かった。

日本電業工作のブースでは、VSAT (Very Small Aperture Terminal: 超小型衛星通信ターミナル) と FalconWAVE (長距離無線LANシステム) を組み合わせた可搬局が紹介された。使用する衛星とVSATのメーカーを聞いて見たら「衛星は、韓国のコリア衛星5/5A、VSATのメーカーは、カナダのC-COM Satellite」との回答であった。さらに、「FalconWAVEは、自社開発のシステムで広域WiFi環境を実現する。災害発生時の緊急通信網や山間部・離島での通信手段として衛星と組み合わせ活用してもらいたい」と語っていた。

日本アンテナは、BS/110度CS 4K8K 右左旋円偏波に対応し、豪雪地域でも使用可能な融雪装置付き衛星放送受信アンテナ「PS800」を出展して注目を集めた。まだ参考出展の段階とのことであったが、直径75cmの鏡面に積もる雪を溶かすシステム、ODUの防水カバーなど完成品に近い状態と思われた。同社のブースでは、この他、「地域BWAの構築+ローカル5Gの準備」を兼ねたCATV局用の2バンド(2.5GHz、4.7GHz)対応アンテナシステムも紹介された。小型な水平平面アンテナと垂直平面アンテナを組み合わせているのが特色である。

古野電気は、タイミング同期用GNSSアンテナ「AU-217」を目玉にして出展した。日本の準天頂衛星はもちろんのこと、アメリカのGPS、ロシアのGLONASS、ヨーロッパのGalileoにも対応している。ブースの担当者は、「IP67規格に基づく耐環境性能と高いノイズ耐性を備えている」と強調していた。

予想外だったのは、LWPAゾーンのSigfoxコーナーに、フランスのユーテルサットが推進している低軌道周回衛星(LEO)によるナローバンドIoTサービス「ELO (Eutelsat LEO for Objects)」プロジェクトが紹介されていた。予定表によれば、2019年中に衛星を打ち上げ、2020年に技術検証をして同年後半から商用サービスを開始するという。

次いで、会場を回りながら出くわした珍しい製品としては、3Dカメラ、ミニカメラ、ドローンが挙げられる。

アメリカのマーターポート社(本社、カリフォルニア州サニベール)製3Dカメラを紹介したのは、空間計測サービスを得意とするきもと社だ。この3Dカメラには、3方向に対応したカメラと赤外線カメラが合わせて6台組み込まれており、実空間を3Dスキャンし360

度3D-VR撮影を実現する。

ドイツのDream Chip社製フルHDミニカメラ「DCT0001」、4Kミニカメラ「DCT0007」を披露したのは、三友だ。才数、重量、価格を聞いて見たら「HDは3cm x 3cm x 3.1cm、45g、183,000円、4Kは3.6cm x 3.6cm x 7.9cm、123g、946,000円」との回答であった。

台湾のHarwar International Aviation Technology社製ドローンを出展したのは、都心でドローンスクールを運営している田中電気だ。「D-Hope I、II、III」と名付けられたこのドローンは、すべて災害救助に特化した産業用ドローンで、「第3世代のD-Hope III」は720度全方向の障害物を感知するAIを搭載している」という。搭載できるペイロードを聞いてみたら、36倍ズームHDカメラ、4Kカメラ、空中照明モジュール、拡声器モジュールなどを挙げていた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド4WD 5名定員

1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下(地下駐車場可)

3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125